

濟亦須勘其怠准牧子徵之、

寛平五年三月十六日

〔西宮記八月〕延喜五八十四、於仁壽殿覽秩父御馬歸御以黃褂一領給牧司利春

同十八年八月廿日、召武藏御牧司道行賜衾一條、

〔吾妻鏡十九〕承元五年○建暦元年五月十九日庚午、小笠原御牧牧士與奉行人三浦平六兵衛尉義村代官有喧嘩事、今日被經沙汰、對如此地下職人稱奉行恣令張行之間、動及喧嘩、偏忘公平之所致也、早可改義村奉行之由被仰出、被付佐原太郎兵衛尉云云、

〔成田參詣記三〕下野牧○中略牧子と稱する士凡四十餘名各地に散在す、その長を綿貫といひ、小金驛に住せり、先祖は千葉氏の庶族なりしと云、毎年春秋二度に官命ありて、二歳以上の駒を捕しむ、

〔類聚符宣抄八〕撿牧使事

太政官符 信濃上野兩國司

左馬權少允正六位上安倍朝臣以重

右馬大屬從七位上石城村主保兼

右中納言從三位兼行民部卿藤原朝臣文範宣奉勅爲令撿校彼國諸牧御馬并牧內雜事差件等人發遣者、諸國承知一事以上、聽使撿校符到奉行、

正五位下守右中弁藤原朝臣永保

從五位下行左大史大春日朝臣良辰

天延三年二月一日

太政官符 甲斐武藏兩國司

左馬權少允正六位上安倍朝臣以重

右馬大屬從七位上石城村主保兼

右中納言從三位兼行民部卿藤原朝臣文範宣奉勅爲令撿校彼國諸牧御馬并牧內雜事差件等人發遣者、諸國承知一事已上、聽使撿校符到奉行、